

毎日がハッピーになる! 家族で楽しむアイデア満載

ホームシアターファイル

2018 SUMMER vol.86 ¥1,300

特集

AIのある暮らし 有機ELテレビシアター

CEDIA

CUSTOM
ELECTRONIC
DESIGN &
INSTALLATION
ASSOCIATION

ホームシアターファイルは
CEDIA メンバーです

Phile
web

ホームシアターファイルが
コンテンツマガジン

大人から子供まで笑顔になる

ホームシアターの 作り方がわかる

家族で観よう!

No.1物件
はこれだ!

ホームシアター
グランプリ2018
—インストール編—

アトモス×密室×VRが誘う別世界

異次元の没入感

この卵型の不思議な物体は何だろう？
14ch内蔵のイス型スピーカーにして、
必要な設置面積はわずか1m四方。
密室ならではの完璧な音響空間が実現する
新次元のアトモス体験をご紹介します。

取材・文／編集部



ドルビーアトモス対応
イス型スピーカー

Audio Heart VRS-1

¥980,000(税抜、運送・設置代別)

SPEC

●型式：フロント/2ウェイ、センター/フロントLRによる仮想再生方式、サラウンド(サイドL/R、リアL/R、天井×4)/1ウェイ、ハッシュ・サブウーファー ●ユニット：フロント/25mmトウィーター×1+80mmウーファー×1、サラウンド/50mmウーファー×1、サブウーファー/160mmウーファー×1 ●インピーダンス：8Ω(全スピーカー共通) ●外形寸法：995W×1,340H×1,080Dmm ●質量：93kg(上部23kg、下部44kg、脚部26kg)

概要から見ている。卵型のイスの内壁に、14chのスピーカーが内蔵されている。超低共振周波数設計のサブウーファー、ワイドレンジのアルミコーンウーファー、ハイレゾ帯域も楽にカバーするトウィーターなど、すべてVRS-1のために新開発されたものだ。AVアンプを接続し、椅子の前にテレビを置くか、VRゴーグルを装着して映像を楽しむ。椅子の内壁が防音を果たすため、音が漏れにくいのも嬉しい点だ。

そんな方に、このイス型スピーカー「VRS-1」をお薦めしたい。なにしろ1m四方で、厳密に調整されたアトモスを堪能できるのだ。しかもVRS-1はアトモスを省スペースで楽しめるだけの製品ではない。イスの内側という密室であるがゆえの、これまでにない音響世界が体験できるという。

ドルビーアトモスに興味があるが、制約があつて手を出せない…そういう方も多いだろう。何しろスピーカーの数が多し、アトモスの本領を発揮するためには配置、ルームチューニングも厳密にしたい。でも、あの音の飛び交う立体感、移動感は格別だよなあ。

イス一台でアトモスを堪能
スピーカー14chを壁に内蔵



VRをつけると、視界は360度映画の世界、音は前後左右に音が飛び交う、臨場感たっぷりの立体音場。ゲームをすると、リアリティと没入感のあまりキャラクターに合わせて動いてしまいます。

イスという密室ならではの 厳密な空間チューニング

開発者の相澤さんが、VRS-1の強みを語ってくれた。相澤さんは日大理工学部を卒業後、北斗音響を皮切りに、コーン、ドーム、キャビネットの設計から音の最終的なまとめ上げまで、40年以上スピーカー畑で働いてきた方だ。AKAIで勤めた時代には、三菱ダイヤモンドの設計チームと協働し知見を深めた。

その相澤さんが、アメリカのCE DIA EXPO(世界最大のインストール展示会)でポールチェアを見たのが企画の始まりだった。「このイスの内側にアトモスを内蔵したらどうなるんだろう?」その夢を、培った知識と経験、人脈で形にしたのがVRS-1だ。

「部屋の影響を受けないのが最大の特長です」と相澤さんはいう。「部屋には反射や残響など、音に影響する要素が多数あります。それを完璧に整えるには防音室の設置など、莫大な手間と費用がかかります。

その点、VRS-1は空間が椅子の内部で完結するので、理想的なルームチューニングを施せました。吸音材を全面に導入して無響室に近い空間を作り出し、反射と残響音を測定、スピーカー位置を調整し理想的

な音響空間を実現したのです。

音の理想は、スピーカーの存在を忘れさせることだと思っています。反射・残響をコントロールできたことで不要な付帯音が減り、定位感・移動感の表現がこれまでになくなりリアルになりました。音がリアル自然界の響きに近くと人工物であることへの違和感が減り、スピーカーの存在は薄まります。そのぶん映画やゲームの世界への没入感、現実感が高まり、その世界に自分もいるかのような感覚を味わえるのです。

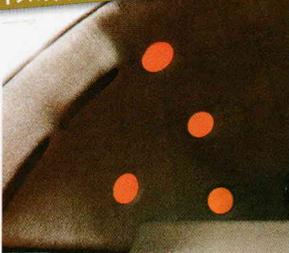
私が作ったのはスピーカーですが、スピーカーを忘れ、映像世界に没頭してもらうことが理想です。この感覚は映画にはもちろん、ゲームやラ

開発者の声



オーディオハート株式会社社長、相澤寛さん(philenumber:2361)。着想から2年半、試作を繰り返して納得の1台を作り上げた。

イスの内側はこうなっている



測定と調整を繰り返し、理想の位置にたどり着いた14chのスピーカー。アトモスの基準に準拠しつつ、卵型のフォルムに合わせた微調整で追い込んだ。

「IP映像でも最高ですよ」

中に入って実体験
これはアトモスの新次元だ

まず驚いたのは座り心地。高級車のような内装とクッションで、繭に包まれるような安心感と、コクピットにいたような高揚感が味わえる。

『マッドマックス』をアトモスで観る。遠くから吹く風の音、主人公の抑えた声、砂地を駆けるトカゲの足音。それぞれの音がどこで発生しているかが克明にわかり、自分もその場にいるような錯覚に鳥肌が立つ。

主人公が洞窟から脱出するシーン。少女の声が脳内で響く場面だ。声が脳内の左斜め上、右斜め前などあちこちから聴こえ、その現実感によって、混乱する主人公の感情が自分にも伝染する。

VRS-1の画面と音をつける。360度の画面と音に包まれて、意識が瞬時に別世界に飛ぶ。ドラゴンクエストのフィールドシーンでは、風が草を揺らす音、モンスターが近づいてくる音、主人公が腰の剣を抜く音、それぞれの遠近の描きわけが完璧で、思わず剣を振る動きをしてしまった。省スペースアターという概念を超えた、ドルビーアトモスの真価を引き出す最適解として、コアなファンにこそ薦めたい逸品だ。